

秋田県

公文書館だより

第30号

平成27年3月11日



大館絵図(県C-190、141cm×178cm、享保13年)

「岡本元朝日記」 第一巻

秋田県立秋田図書館（現秋田県立図書館）以来続いている秋田藩の藩政史料の翻刻・刊行事業は、当館に引き継がれました。記録を通して約二百六十年続いた江戸時代の秋田藩の歴史を見るという構想に基づき、秋田県立秋田図書館で「国典類抄」全十九巻（秋田藩初代藩主佐竹義宣から八代藩主義敦）、「御龜鑑」江府五巻、当館で「御龜鑑」秋府二巻（九代藩主佐竹義和）・「渋江和光日記」全十二巻（十代藩主佐竹義厚）・「宇都宮孟綱日記」全八巻（十代藩主佐竹義厚から最後の藩主義堯）を刊行いたしました。

昨年度は当館開館二十周年事業の一環として、当館所蔵の絵図図録を編集・刊行いたしました。今年度より当館所蔵史料の刊行事業を再開し、「岡本元朝日記」第一巻を刊行することとなりました。「岡本元朝日記」は、全八巻を予定しており、毎年一巻刊行します。

記主岡本元朝は佐竹家中で、寛文元年（一六六一）に生まれました。

元禄四年（一六九一）八月三日、秋田藩の相手番に任じられます。同十年（一六九七）八月に佐竹家譜編纂・文書改等の、いわゆる修史事業の統括を命じられます。同十四年（一七〇二）十月十六日に家老に任じられます。宝永四年（一七〇七）四月二十日に角間川給人の組下支配となります。正徳二年（一七一一）二月十六日に五十二才で久保田に没しました。通称ははじめ和泉、後に又太郎です。元朝の著作として、「佐竹義俊義治考」・「佐竹義元始末考」・「山入始末」・「山入始末考」・「梅津主馬利忠覚書」・「和田昭為伝聞書」等があります。

刊行にあたって、当館所蔵「岡本元朝日記」六十四冊（資料番号七―三八〇―一〜六四）を底本としました。そして底本に欠けている部分は、「元朝日記抄」二十一冊（資料番号県A―一四四―一〜二一）で補いました。

底本は明治四十年（一九〇七）八月八日、羽生氏熟が秋田県立秋田図書館（現秋田県立図書館）に寄贈、平成五年（一九九三）十一月、当館に移管されました。底本は、元禄八年（一六九五）正月二日から正徳二年（一七一一）までの日次記です。

より正確にいきますと、一〜六十二、つまり元禄八年（一六九五）から正徳元年（一七一一）までは元朝の自筆ですが、正徳二年（一七一二）の分である六十三・六十四は元朝の家臣糸川文蔵が執筆しています。文蔵は、正徳二年（一七一二）正月一日から二月十六日の元朝死没直前までを元朝、それ以降を自分の立場で記しています。

「元朝日記抄」は、秋田藩から秋田県庁に引き継がれた秋田県庁旧蔵文書の一つです。「元朝日記抄」は日次記ではなく、「国典類抄」の項目立てにならった「岡本元朝日記」の部類記です。「元朝日記抄」を底本と比較すると、底本に記されている天候は省略されていますし、漢字を仮名に改める等、底本の文字に必ずしも忠実ではありませんし、編者の考が記されています。

第一巻では、元禄八年（一六九五）正月から同一四年（一七〇二）九月までの分を刊行しました。底本は元禄十一年（一六九八）、宝永四年（一七〇七）六・七月等の分を欠いておりますが、これらを「元朝日記抄」で補える場合があります。ただし、第一巻では底本にない冊、具体的に

は元禄十一年（一六九八）の分は採録せず、底本にある冊の欠損部分を補うにとどめました。たとえば冒頭の元禄八年（一六九五）正月一日条全部と翌二日条が底本では欠けていますので、「元朝日記抄」で補っています。

元朝が日記を記した元禄から正徳の時期は、長い江戸時代では安定期といわれています。当該期の記録は「国典類抄」にも収録されていますが、「岡本元朝日記」は利用されていません。十七世紀から十八世紀中頃までの史料は多いといえませんが、「岡本元朝日記」を秋田藩の藩政史料として利用していただきたいと思えます。

「岡本元朝日記」から様々なことがわかることでしょう。その詳細は実際に手にとってご覧下さい。

岡本元朝日記第一巻は税別四千元で頒布しております。ご購入希望の方は、左記までお申し込みください。

〒〇一〇九〇一
秋田市寺内字三千刈一〇一―
秋田活版印刷株式会社
電話 〇一八八八三五〇〇

「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」

前期 八月二十三日～九月二十三日
後期 十月三十一日～十一月三十日
場所 当館特別展示室

今年度の企画展では、十月から十一月に開催された第二十九回国民文化祭あきた2014を契機に、「秋田の文化」をテーマに取り上げました。また、公文書関係の企画展では初めて、前期後期の展示内容をほぼ全面的に入れ替えることを試みまし



た。前期は、秋田の伝統行事・芸能「秋田県民歌」の誕生、県史編纂（戦前編）、秋田の食文化、文化の殿堂（戦前編）、月刊広報紙「あきた」のコーナー、後期は、秋田の伝統工芸、「県民の歌」の誕生、県史編纂（戦後編）、史跡の保存調査、文化の殿堂（戦後編）、文化エトセトラのコーナーで構成しました。

前期後期とも公文書館の資料活用術というコーナーを最後に設け、文化について調べる際に有用な所蔵資料を紹介しました。行幸・行啓・お成り関係、博覧会・共進会関係、史跡等調査関係、土木営繕関係、県史編纂関係の公文書、また県政映画や月刊広報誌「あきた」などです。

期間中、展示担当職員によるギャラリートークを十六回行いました。お客様と職員、またお客様同士のコミュニケーションや情報交換の機会となりました。トークを聞き、公文書や県政映画の閲覧方法を問われたお客様もおられました。

昭和三十五年「県民の歌・県旗・県章関係綴」 「県民の歌」誕生秘話を伝える公文書

今回の展示では、前期に「秋田県民歌」、後期に「県民の歌」誕生の経緯を紹介しました。戦前の「秋田県民歌」については、残念ながら「秋田県報」以外に制定過程を知る資料が残っていません。

これに対し、戦後の「県民の歌」については、昭和三十五年「県民の歌・県旗・県章関係綴」（資料番号九三〇一〇三―三五〇）があります。一冊の中に、「県民の歌」等



「県民の歌」楽曲公募の当選作品

選定要綱案、「県民の歌」歌詞募集規定、歌詞及び楽曲公募作品の審査経過の記録などがあるほか、楽曲公募ポスターや当選した応募作品（写真）、「県民の歌」披露時の楽譜など希少な現物も保存されています。

この簿冊の記録から、昭和三十四年（一九五九）の「県民の歌」誕生に関して興味深い事実が分かります。たとえば「県民の歌」が当初「県民舞踊」とセットで検討されていたこと。当選した応募歌詞が大幅に補作され現在の形になったこと。応募楽曲の最終選定で審査した音楽家達の意見が割れ、当初予定された十一月三日の文化の日間に合わず、十二月七日の新県庁舎竣工式で披露されたこと。そして、県内各地でレコードの市販を望む声が多く、製作会社の特約店で販売したことなどです。

他にも「県民の歌」誕生の経緯を詳細に記録した文書が綴じられていますので、今後ぜひご利用ください。

公文書館講座

今年度の「公文書館講座」は「古文書解説講座Ⅰ・Ⅱ」と「アーカイブズ講座」の二本立てで開催しました。

「古文書解説講座Ⅰ」は、初めて古文書を学ぶ方を対象に全六回で実施。昨年度の講座アンケートでは初級編でも「難しい」という回答が多かったことから、実際にくずし字を

読む前に、古文書に頻出する用語や表現、文章のパターンなどについて紹介しました。また、ひとつの文書を時間をかけて読むことができるよう、教材の量はやや少なめでしたが、参加者の方からはおおむね好評だったようです。

「古文書解説講座Ⅱ」は、古文書のある程度読める方を対象に実施し

ました。「町触控」「佐竹北家日記」などの解説を通して、近世秋田の歴史にも触れる内容です。それだけにベテランの参加者が多く、熱心に質問する姿も見られ、充実した時間となりました。

「アーカイブズ講座」は昨年度に引き続き、秋田県生涯学習センターとの共催事業（「美の国アクトイブ カレッジ」の一環）として、同センターを会場に実施しました。企画展の展示資料に関連したエピソードや、「戸村家文書目録」作成の過程など多彩な内容を通して、所蔵資料に加えてアーカイブズⅡ公文書館の業務の一端を紹介する講座です。終了後には展示室や閲覧室を訪れる参加者の姿が見られ、中には講座で初めて公文書館について知ったという声もありました。講座への参加が公文書館の利用につながってくれば幸いです。

古文書解説講座Ⅰ

初めて古文書を学ぶ方を対象に実施。

	実施日	テ - マ
第1回	6/28(土)	古文書・用語の基礎知識
第2回	7/5(土)	候(そうろう)文に挑戦!
第3回	7/12(土)	くずし字に慣れよう
第4回	7/19(土)	くずし字の古文書を解説しよう
第5回	7/26(土)	秋田藩家蔵文書をよむ
第6回	8/2(土)	

古文書解説講座Ⅱ

古文書のある程度読める方を対象に実施。

	実施日	テ - マ
第1回	9/5(金)	佐竹義宣の書簡 - 「秋田藩家蔵文書」より -
第2回	9/12(金)	瀬谷小太郎宛の書簡 - 「真崎文庫」より -
第3回	9/19(金)	中後期秋田藩政の一面断片 - 「町触控」を読む -
第4回	9/26(金)	「佐竹北家日記」を読む

アーカイブズ講座「解説!アーカイブズ」

生涯学習センターと共催で実施。

	実施日	テ - マ
第1回	10/17(金)	明治維新 城のゆくえ - 久保田城を中心に -
第2回	10/24(金)	アーカイブズで再発見! 秋田の魅力
第3回	10/31(金)	「秋田県民歌」「県民の歌」誕生秘話 - 平成26年度公文書館企画展より -
第4回	11/7(金)	秋田藩発給文書について

今年度は「古文書解説講座Ⅰ」に二〇四名、「古文書解説講座Ⅱ」に一二六名、「アーカイブズ講座」に一八四名と、計五一四名の方々にご参加いただきました。多くのご参加ありがとうございました。来年度も公文書館講座をよろしく願います。



県政映画上映会

懐かしき昭和三十年代の我が秋田

今年度も八月三十一日(日)と十一月三日(月)に、当館三階多目的ホールにて、「県政映画上映会」懐かしき昭和三十年代の我が秋田」を開催しました。

八月の上映会では、国民文化祭にちなみ、伝統工芸や生活文化など秋田の文化に関する話題を始めとした五本の作品を上映しました。



11月3日(月・祝)上映「二代目千秋丸」より

十一月は、秋田の文化の話題やリクエストの多かった秋田国体の話題などを県政映画から紹介しました。

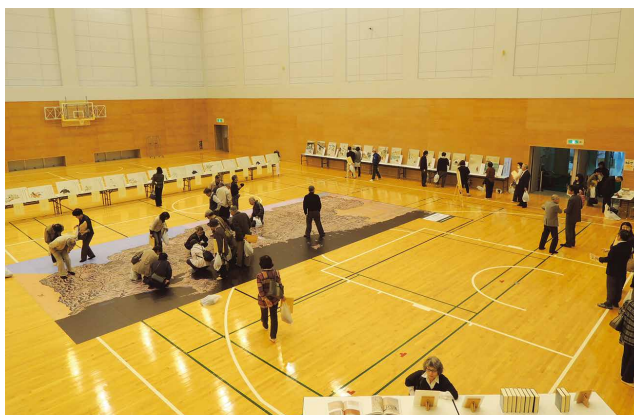
お客様の感想をいくつかご紹介いたします。「昔、テレビなかったの、どれも感心してみた」(六十代、女性)、「大館市の大火を見て、今では考えられないほど、御苦労をされたものと思った」(七十代、男性)、「秋田県の発展時を自分の生きる時と重ねる事が出来ました。ありがとう」(六十代、女性)、「とても楽しかった。色々な形でもっと県民に見てもらおうといいですね」(五十代、女性)、「例えば千拓当初の大潟村と、今現在のお米が余りすぎていて大変な状況になっている大潟村との差などを考えさせていただきながら拝見させていただきました」(三十代、女性)、「秋田の歴史を知ること、今後活かしていきたいと思っています」(五十代、男性)、「昭和三十年代老いも若きも目が輝やっていた」(七十代、男性)。

初公開！原寸大複製絵図

「出羽一國御絵図」(正保國絵図控)

公文書館の所蔵資料で最初に秋田県指定有形文化財となった「出羽一國御絵図」(県C-1603)は、正保年間(一六四四〜四八)に作成・提出された国絵図の控と考えられています。縦五三センチ、横一二二センチに及ぶこの絵図は、あまりの大きさに展示が困難であるため、これまでは閲覧室の小型複製絵図や、絵図モニターなどの画像でしかご覧いただくことができませんでした。しかし、やはり実際の大きさを体感してもらいたいと考え、今年度原寸大の複製絵図を作成しました。

当館所蔵の大型絵図は、後世になつて軸装されたものがほとんどですが、作成当時は広間などで床にひろげて使用していたと考えられます。今回の複製絵図も「床に置いて見る」状態を想定し、約一メートル四方に分割したピースを六十枚作成して並べることで、原寸大での再現が可能になりました。また、絵図の上に乘つて見学できるように、強度の高い素材を使用しています。



初公開となった十月二十五日の「読書のつどい二〇一四秋」(秋田テルサ)では、延べ一八〇人の方々にご来場いただきました。絵図の上を何度も往復する方、特定の地域をじっくり眺める方と、楽しみ方は様々でした。スペースの都合で館内での展示は困難ですが、今後も随時公開の場を設けていく予定です。

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議は、県内市町村の各担当者と当館で問題意識を共有し、公文書・古文書等の歴史資料の保存と利用について取り組みの強化を図ることを目的に毎年開催しており、今年度は十一月二十日に開催しました。

会議の前半では、二十八年度に公文書館開館を目指す大仙市の取り組みが報告されました。東北の市町村では初の設置となります。

また、村創立五十周年を迎え村史を刊行した大潟村の取り組みなどについて事例報告がありました。

午後からは基調講演に、山岸正男長野県小布施町文書館長をお迎えして「新たな公文書管理の確立へー小布施町の公文書管理と公文書館ー」というお話をいただきました。

小布施町は、二十五年に公文書管理条例の制定と公文書館の設置の両方を行ったばかりです。決して大都市ではない人口約一万一千人の小さな町がそれを成し遂げたという点は、県内市町村の各担当者に刺激に



なったものと思います。これらの公文書管理への取り組みがまちづくりの経緯から生まれてきたお話などは、各参加者にも強い印象を与えたようでした。講演の詳細は当館の「研究紀要」第二十一号をご覧ください。

当館では、今後も公文書・歴史資料保存の市町村支援として何ができるかという観点から取り組んで参ります。

公文書の引渡し・公開状況

県の各課所で作成され県庁舎地下書庫などで保存されている公文書は、保存期間経過後に当館へ毎年引き渡されます。前年度知事部局から引渡しを受けた件数は約四千四百件（約七千四百冊）です。これらは、毎年当館の基準により評価・選別を行い、後世に継承すべき県政資料として利用者への公開等に備え、当館の書庫に保存します。

一方、当館に現在保存されているもののうち作成後三十年経過した公文書については、毎年利用者への公開に向けて個人のプライバシーを侵害する情報があるかどうかを主眼に点検し、作成原課所との協議を経て、目録作成・データベース登録など公開に向けた作業を行っていきます。

平成二十六年度に新たに公開対象とした公文書の内訳は下表のとおりで、合計九百六十七件です。どなたでもカウンターへ閲覧請求の上、原本を（非公開情報は被覆の上）ご覧になれますのでお気軽にご利用ください。

平成26年新規公開状況

新規公開の候補とした公文書		1,614件
内 訳 理 由	公開と決定	967件
	非公開と決定	647件
	非公開情報が多数含まれている(※1 ※2)	201件
	作成原課で現在も利用している(※2)	446件

※1 非公開とすべき年数が満了した時に公開となる

※2 情報公開条例による公開請求対象となる

引渡し・保存状況

	引渡件数	保存件数	保存率
知事部局 (平成25年度分)	4,437件 (7,438冊)	573件 (1,074冊)	12.9%
各行政委員会 (平成24年度分)	35件 (75冊)	7件 (43冊)	20.0%

「大仙市公文書館 設置シンポジウム」に参加して

平成二十六年十一月八日、大仙市主催（秋田県後援）の標記シンポジウムが、「今なぜ公文書館が必要なのか」をテーマに、同市大曲交流センターで開催され、約八十人が出席しました。

当館からは平井館長が来賓として挨拶し、戸嶋専門員がパネリストとして参加したほか、公文書館の意義や役割について理解を深めてもらうため、当館の業務や大仙市に関する所蔵資料を紹介するパネル展示を行いました。

大仙市は、旧双葉小学校（強首地区）を改修し、平成二十八年度に市町村としては東北初となる公文書館を開設し、古文書と歴史的公文書を一元管理する計画を進めています。

基調講演では、渡辺英夫秋田大学教授が、公文書の保存は行政が将来にわたって説明責任を果たす根拠として重要であり、市民に利用してもらう意識が必要と述べました。

パネルディスカッションでは、公文書管理を取巻く世界・日本の状況

と市の積極的な取り組みへの期待、地域住民共有の貴重な資産である保存文書の管理・活用が行政効率化にも繋がること、花火関連資料の収集・利用を通じた図書館・資料館等との連携実現、館設置の礎となった古文書ボランティアの活動とその魅力、保存文書の学校教育現場での活用方策などの報告や具体的提案があり、充実した催しになりました。



全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 平成二十七年 全国大会の 大仙市開催が決定しました

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）第四十一回全国大会の開催地が大仙市に決定しました。本県で開催されるのは、平成八年の大会に続き二回目です。大会には毎年全国各地から公文書館職員など二百名を超える関係者が参加します。

今大会は、公文書館設置構想を進めている大仙市が、市民に公文書館への理解を深めてもらう機会にとその開催を誘致したもので、全史料協が主催者、県及び市が共催者として大会を運営します。市町村職員ほか一般県民にも参加いただけるように、今後、三者が協議して大会行事の計画立案を行う予定です。

開催概要

開催日：十一月十二日（木）
～十三日（金）

会場：大仙市大曲市民会館・大仙市立大曲中央公民館・大仙市大曲交流センター

主な行事（計画中）：研修会、自由論題研究会、大会テーマ研究会、視察研修「国指定名勝 旧池田氏庭園」

全史料協について

全史料協は公文書・古文書など歴史資料の保存利用活動の振興に寄与することを目的に、昭和五十一年に設立されました。会員は、地方自治体の図書館、公文書館、図書館、歴史資料館、自治体史編纂室、大学資料室など百三十三機関と個人会員約三百名（平成二十六年十二月現在）からなります。主な活動は、歴史資料の保存と利用に関する研修会・研究会の開催で、全国大会はその最大のものであります。



【第40回全史料協全国（福岡）大会】閉会行事で次期開催地代表として挨拶する平井秋田県公文書館長

ますます充実しました！

デジタルアーカイブをご利用ください

秋田県公文書館では、クラウド型デジタルアーカイブサービス「AM LAD (株NTTデータ)」を利用し、インターネットでデジタルアーカイブを提供しています。

平成二十五年三月の提供開始後もデータを順次追加し、現在では全ての公開資料の目録情報をキーワードで検索できるほか、絵図の一部についてはデジタル画像を自由に拡大縮小表示して閲覧できるようになっています。

また、県内の関連機関（県立図書館、近代美術館、県立博物館、埋蔵文化財センター、あきた文学資料館）のデジタルアーカイブを横断検索することもできます。

デジタルアーカイブの提供内容

- 目録データ 約12万2千点（公文書3万1千点、古文書6万5千点、行政資料2万6千点）
- 画像データ 収蔵絵図約2千6百点のうち、約8百点の画像が手軽に閲覧できます。

公文書館収蔵資料の探し方

インターネットで資料を探すには、次の2つの方法があります。

● キーワードで探す

デジタルアーカイブサイトでは、収蔵資料の目録情報をキーワードで検索できます。検索には3つの機能があります。

- ・ キーワードで簡易に検索できる「キーワード検索」
- ・ 検索条件を細かく設定して検索する「詳細検索」
- ・ カテゴリ一覧からたどって検索する「分類で検索」

● 目録で探す

秋田県公式ウェブサイトでは、収蔵資料の目録データをエクセルファイル形式でダウンロードできます。（一部PDF形式があります）

▼秋田県公式ウェブサイト・公文書館
― 収蔵資料の概要・目録ダウンロード
<http://www.pref.akita.lg.jp/kobunso/>

平成二十七年

行事予定

◆ 企画展

「藩政期の秋田」
前期 8月29日～9月23日
後期 10月31日～11月30日

◆ 公文書館講座

古文書解読講座
7月3日・7月10日・7月17日・7月24日

● アーカイブズ講座

7月31日・8月28日
於：県生涯学習センター

◆ 県政映画上映会

第一回 8月29日（土）
第二回 11月1日（日）

◆ 古文書相談日

4月21日・5月12日・5月26日・
6月9日・6月23日・8月25日・
9月8日・10月6日・10月20日・
11月24日 12月8日・12月22日・
1月12日・1月26日・2月9日・
2月23日・3月8日

◆ 全史料協全国大会

11月12日～13日
於：大仙市

公文書館

利用案内

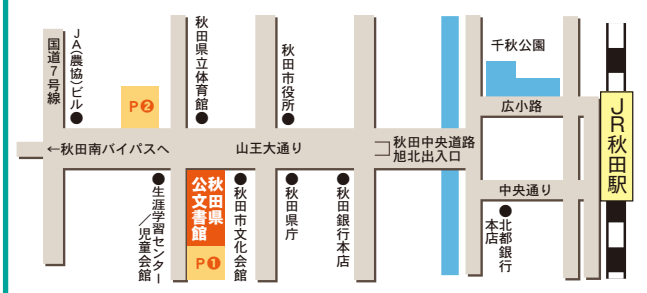
◆ 開館時間

平日 9時～19時
土日祝日 10時～18時

◆ 休館日（平成27年度）

4月1日・5月13日・7月1日・
8月5日・9月2日・10月7日・
11月4日・12月2日・1月6日・
2月3日・3月2日
年末年始 12月28日～1月3日
特別整理期間 6月1日～7日
11月9日～15日

周辺案内図



編集発行：秋田県公文書館
〒010-0952 秋田市山王新町14-31 電話018(866)8301
URL <http://www.pref.akita.lg.jp/kobunso/>

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この印刷物は二〇〇部作成し、その経費は一部当り二五・〇〇円です。